

**WEEKLY SIGNAL**

2019年9月27日(金) 1493号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	9/30(月)	10/1(火)	10/2(水)	10/3(木)	10/4(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 200	+ 1,000	トシ	△1,000	△1,000
財政他	△3,700	△21,000	△63,000	+ 1,000	△4,000
資金需給	△3,500	△20,000	△63,000	トシ	△5,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行(2年)	国債発行(10年) 税・保険揚げ		
オペ期日	CP等買入 △4,400 共通担保(全店) △2,200 国債補充供給 + 400				
オペスタート	CP等買入 + 4,000 共通担保(全店) + 2,200				
(日本)	金融政策決定会合における主な意見(9月18、19日分)	日銀 企業短観経済観測調査(短観、9月) 有効求人倍率(8月) 失業率(8月)		布野日銀審議委員、金融経済懇談会であいさつ(島根県松江市)	
(海外)	ユーロ圏 失業率(8月) 独 CPI(9月) 英 GDP(2Q)	米 ホウマンFRB理事、講演 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 ISM製造業景況指数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(9月) ユーロ圏 CPI(9月)	米 NY連銀総裁、講演 米 フィアデルフィア連銀総裁、講演 米 リッチモンド連銀総裁、講演	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 クリアブランド連銀総裁、 パネル討論会に出席 米 新規失業保険申請件数(9月28日終了週) 米 製造業受注(8月) 米 ISM非製造業景況指数(9月) ユーロ圏 総合・サービス業PMI(9月) ユーロ圏 小売売上高(8月) ユーロ圏 PPI(8月)	米 ハウエルFRB議長 イベントで開会演説 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 ホスト連銀総裁、講演 米 雇用統計(9月) 米 貿易収支(8月)

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**＜インターバンク＞**

日銀当座預金残高は、週初409兆5,900億円から始まった。その後25日の国債買入オペを主因に410兆1,000億円まで増加したが、週末となる27日は、財政等要因により減少し、408兆6,800億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は、週初24日に△0.059%だったが、地銀・証券業態を中心としたビッドサイドの調達意欲が旺盛だったため、週を通して堅調な地合となり、同金利は上昇基調を辿った。週末27日には△0.046%まで上昇した。  
期内エンドのショートターム物は、△0.040~△0.030%で出が見られた。なお未越えのターム物は、目立った出は見られなかった。  
日本銀行は26日の国債買入オペにて「5年超10年以下」の買入れ額を3,500億円とし、前回の3,800億円から減額した。  
来週の主な予定は、国内では30日に金融政策決定会合における主な意見(9月18、19日分)の公表、1日に日銀短観(9月調査)の公表、海外では1日にユーロ圏CPI(9月)の公表、4日にパウエルFRB議長の演説や米雇用統計(9月)の公表などがある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.350 ~ △0.300
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**＜CP＞**

今週の入れ発行総額は約1兆9,000億円で、週間償還額(約1兆4,500億円)に対し増加した。月末日の大量償還に対して、月末スタートの発行は約7,800億円にとどまった。9月末の市場残高は、有利子負債の圧縮目的で大きく減少し、18兆円台前半と思われる。発行レートは、マイナスから0%近辺での横ばい圏内での出合いであったが、月末スタートでは一部の銘柄でマイナスが深まった模様。25日に、CP等買入れオペが予定通り4,000億円オファーされ、按分落札レート△0.005%・平均落札レート△0.001%、と、按分・平均落札レートともに前回比で上昇した。  
来週の償還総額(9/30~10/4)は、3兆7,300億円程度(月末償還の約3兆6,400億円を含む)となっている。一般事業法人のCP活用のニーズは強く、期明けの発行再開により市場は活況を予想する。発行レートは、マイナス~0%近辺での出合いと思われる。

**＜TDB＞**

27日の3M860回債(来年1/8償還)の入札結果は年末年始越えの担保需要から、最高落札利回り▲0.2553%(前回債▲0.1378%)、平均落札利回り▲0.2709%(同▲0.1483%)と大きく低下した。入札後同債は▲0.30%~▲0.38%で取引された。そのほかのセカンダリーでは、3M物が▲0.14%~▲0.15%、6M物が▲0.30%~▲0.315%、1Y物が▲0.305%~▲0.31%のレンジで出合いが見られた。来週は4日に3M物の発行が予定されている。

**＜レポ＞**

足許GC取引は週初△0.08%近辺での出合い。国庫短期証券買入オペがオファーされた26日受渡しでは後場に強含み、一時△0.13%前後の出合いも見られた。中間期末初物となる30日受渡しは△0.13%近辺から出合い始め、△0.12%~△0.11%で多く取引された。  
SC取引は2年404回債が週初から週後半まで△0.16%~△0.12%で推移。期末過ぎとなる30日受渡しではofferが薄く、一時△0.50%台での取引も行われた。  
その他2年402・403回債、5年133・136・138~140回債、10年338~355回債、20年164・166~169回債、30年59・62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。